

出張報告書

令和4年10月28日

市議会議長 西田 武史 様

会 派 名 きしわだ未来

代表者氏名 反甫 旭

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 全国市議会議長会研究フォーラム出席のため
- 2 出張先 長野県長野市
- 3 出張期間 令和4年10月19日～10月20日
- 4 出張者氏名 反甫 旭
- 5 てん末報告 別紙の通り

第 17 回 全国市議会議長会研究フォーラム in 長野（ホクト文化ホール）

○基調講演

コロナ後の地域経済：(株)経営共創基盤グループ会長 富山和彦

○パネルディスカッション

コーディネーター：毎日新聞社論説委員 人羅格

パネラー：早稲田大学電子政府・自治体研究所教授 岩崎尚子

東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原出

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授 湯浅壘道

長野市議会議長 寺沢さゆり

テーマ：地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性

○課題討議

コーディネーター：慶応大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 谷口尚子

パネラー：取手市議会議長 金澤克仁

可児市議会議長 板津博之

西脇市議会議長 林晴信

○考察

今回のテーマは議会のデジタル化であった。本市議会でもタブレットの導入など進めようとしていることはあるが、まだまだこれからである。先進事例として取手市の取り組みはよく取り上げられる。今回、議長から直接説明を伺う機会となったが、議員間の理解と意識の共有が必要でそれが他市においては大きな課題であると感じた。

議会議員は幅広い年齢層で構成されており、デジタル関係に強い議員と弱い議員がいるのが現実である。そうした中では互いの立場を尊重しながら、この分野に詳しい議員はデジタル化を進めることのできる環境を整えるべきだと考える。例えば、会議の際はタブレットを持ち込めるようにしていただければ、メモを取るよりもキーボード入力の方が早いわけであり、同様のことは他でもあると思う。

今後、女性議員も増えれば、産休・育休の課題も出てくる。そうした際にもオンラインで議会に出席できる仕組みを整えることで働きやすい環境を作ることにもつながる。

今回の課題は日ごろの活動からも痛感することではあるが、時代の求めることとして早急に対応していかなければならないという思いをあらためて強くする機会となった。

